

## 1. 計画の基本的事項

### 第2期データヘルス計画

国民健康保険加入者の健康・医療情報をもとに、効果的かつ効率的な保健事業の実施を図るための計画です。

### 第3期特定健康診査等実施計画

国民健康保険加入者に対する特定健康診査・特定保健指導の具体的な実施方法を定める計画です。

### 計画期間

平成30年度から令和5年度の6年間です。

### 中間評価及び見直し計画

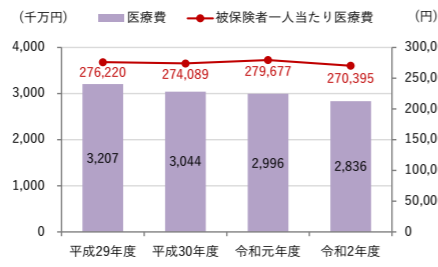
平成30年度から令和2年度までの目標達成状況と成果の中間評価を行い、今後の指標や目標値を見直した計画です。

年度	令和					
	平成30	元	2	3	4	5
保健事業実施計画（データヘルス計画）	第2期データヘルス計画					
			中間評価		評価見直し	
特定健康診査等実施計画	第3期特定健康診査等実施計画					
			中間評価		評価見直し	

## 2. 松戸市国民健康保険の医療費

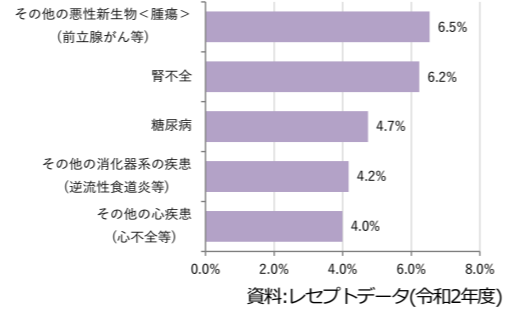
### 医療費の推移

医療費総額は被保険者数の減少に伴い年々減少しています。一人当たり医療費は4年間で約6,000円減少しています。



### 医療費総額が高い上位5疾病

腎不全・糖尿病等生活習慣に起因する疾病が多く、上位5疾病で医療費総額の4分の1以上を占めています。



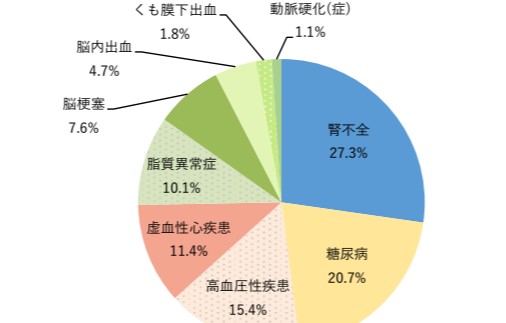
### 特定健康診査受診傾向と一人当たり医療費の関係

特定健康診査を継続して受けている人ほど、一人当たり医療費が低い傾向となっています。

受診行動	対象者一人当たり医療費(円)
4年連続受診している層	246,957
3回受診している層	281,361
2回受診している層	317,201
1回受診している層	318,009
4年とも未受診の層	371,866
計	327,662

資料:レセプトデータ(令和2年度)  
健康診査データ(平成29年度～令和2年度)

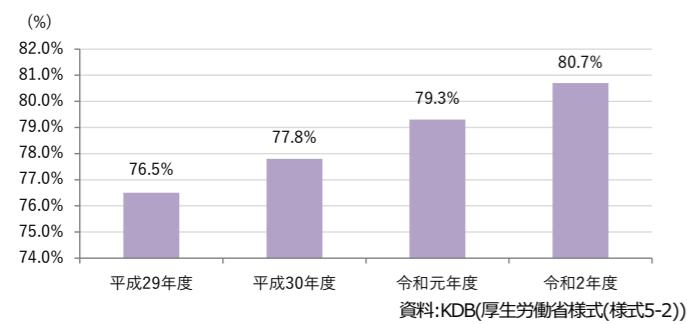
### 生活習慣病に係る医療費



## 3. 保健事業の状況

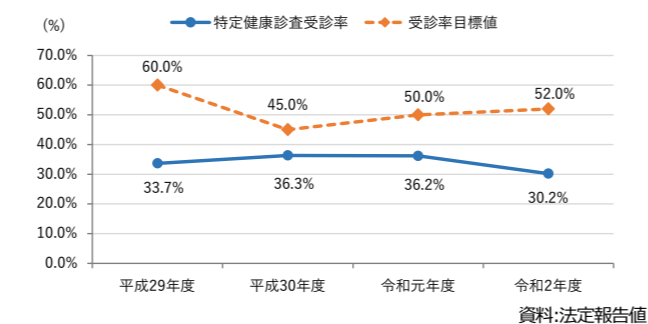
### HbA1c 特定健康診査有所見者数の推移

HbA1c(ヘモグロビン・エー・ワン・シー)は、過去1~2か月の血糖の状況がわかる数値で、糖尿病の判断基準の一つです。本市ではHbA1c有所見者(5.6%以上)が年々増加し8割を超えています。



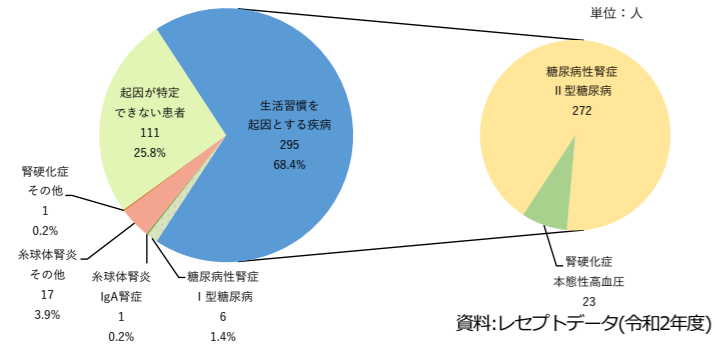
### 特定健康診査受診率

平成29年度から平成30年度にかけては上昇していますが、新型コロナウイルス感染症の影響で平成30年度から令和2年度にかけて低下しており、令和2年度は30.2%となっています。



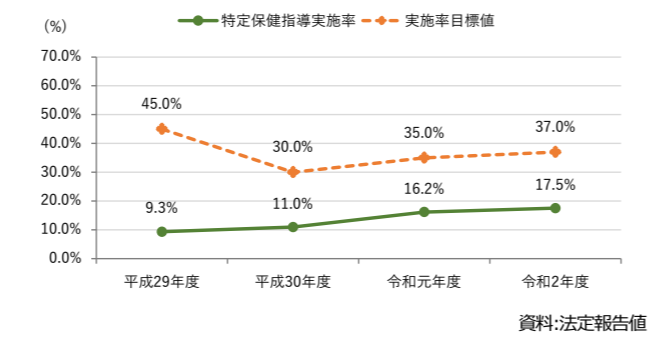
### 人工透析患者と起因

腎不全が悪化すると人工透析が必要になります。人工透析の起因が明らかとなった患者のうち、68.4%が生活習慣を起因とするものであり、そのうち9割以上がⅡ型糖尿病を起因として透析となる糖尿病性腎症でした。



### 特定保健指導実施率

平成29年度から令和2年度にかけて上昇しており、令和2年度の実施率は17.5%となっています。



## 4. 保健事業に対する評価

### 保健事業中間評価及び今後の指標

※中間評価において変更や追加を行った部分は、**太字斜体**で表記

#### ○糖尿病及び糖尿病性腎症重症化予防事業

糖尿病性腎症ハイリスク者への受診勧奨は100%実施しましたが、その後約3割の人が糖尿病での医療受診をしていませんでした。その理由として、糖尿病や腎臓病は自覚症状が現れにくいことから受診を先延ばしにしてしまう傾向があることや、新型コロナウイルス感染拡大により医療受診を避けていること等があります。糖尿病の重症化を防ぐためには、早い段階で医療受診し定期的な検査値のチェックと生活習慣の改善が大切です。今後は現在の取り組みを継続することに加えて、本事業が今まで以上に医療機関に浸透するように糖尿病性腎症重症化予防プログラムの内容改定も視野に入れた協議、検討を進めます。あわせて、糖尿病性腎症重症化予防のための保健指導参加者を増やすために、利用勧奨の内容等に工夫を加えていきます。

事業概要	目標		実績値							
	指標	令和5年度目標値	平成28年度 ハ・スライ	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度 中間評価	令和3年度	令和4年度	令和5年度 最終評価
糖尿病が重症化することにより人工透析になるリスクのある人を対象に、専門医療機関への受診勧奨や保健指導を行います。	人工透析患者数	360人	394人	378人 (**人)	353人 (**人)	367人 (**人)	369人 (**人)	<b>(366人)</b>	<b>(363人)</b>	<b>(360人)</b>
	人工透析新規患者数	80人	86人	96人 (**人)	96人 (**人)	101人 (**人)	83人 (**人)	<b>(82人)</b>	<b>(81人)</b>	<b>(80人)</b>
	HbA1c7.0%以上であり空腹時血糖126mg/dl以上の人のうち未治療者の割合	33.0%	41.0%	36.6% (**%)	36.9% (**%)	38.1% (**%)	36.2% (**%)	<b>(35.0%)</b>	<b>(33.8%)</b>	<b>(33.0%)</b>

#### ○特定健康診査受診率向上事業

特定健康診査受診率は県・国と比較して低いものの、事業開始の平成20年度から平成30年度にかけては受診勧奨等の効果で23.7%から36.3%と12.6ポイント上昇しました。しかし令和元年度から新型コロナウイルス感染拡大の影響で、集団健診の中止や健診の受診控え等により受診率が下がっています。また40歳代から50歳代の勤労世代においては特に受診率が低く、この層の受診率を向上させることが懸案となっています。今後は、現在の受診啓発、受診勧奨を継続するとともに、40歳代から50歳代の受診率を向上させるために、当該年代への電話等による受診勧奨の強化、及び特定健康診査受診前の年代から健診を受ける習慣付けができるように「35歳から39歳の国保健康診査」の未受診者への受診勧奨を強化していきます。

事業概要	目標		実績値							
	指標	令和5年度目標値	平成28年度 ハ・スライ	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度 中間評価	令和3年度	令和4年度	令和5年度 最終評価
40歳から74歳を対象として特定健康診査を実施するとともに、未受診者への受診勧奨、対象者への啓発を行い、受診率の向上を目指します。	特定健康診査受診率	40.0%	33.3%	33.7%	36.3% (45.0%)	36.2% (50.0%)	30.2% (52.0%)	<b>(36.0%)</b>	<b>(38.0%)</b>	<b>(40.0%)</b>
	40歳代~50歳代男性の特定健康診査受診率	20.3%	14.5%	16.3%	17.1% (16.5%)	17.2% (17.5%)	13.9% (18.3%)	<b>(19.0%)</b>	<b>(19.7%)</b>	<b>(20.3%)</b>

#### ○特定保健指導実施率向上事業

令和2年度の特定保健指導実施率は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも前年度から1.3ポイント上昇し17.5%となりました。専門事業者に委託している「動機付け支援」では、遠隔面接の導入により面接形式や面接日時の選択肢を拡大し、スマートフォンのアプリを活用した栄養相談もできる等対象者のニーズを踏まえた多様な保健指導の展開が可能となったことが、実施率の向上につながった一因と考えられます。今後は、実施率の低い「積極的支援」を専門事業者に委託することで実施率の向上を目指し、委託後は遠隔面接の活用、実施期間や実施内容の見直し等、利用者が利用しやすい環境を整備するために事業者と連携を密にして保健事業を進めていきます。

事業概要	目標		実績値							
	指標	令和5年度目標値	平成28年度 ハ・スライ	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度 中間評価	令和3年度	令和4年度	令和5年度 最終評価
生活習慣や検査値が改善されるよう専門職による支援を面接や電話等で実施するとともに、未利用者への利用勧奨や啓発を行うことで特定保健指導実施率の向上を目指します。	特定保健指導実施率	20.0%	12.7%	9.3%	11.0% (30.0%)	16.2% (35.0%)	17.5% (37.0%)	<b>(18.4%)</b>	<b>(19.2%)</b>	<b>(20.0%)</b>